

# ピアホームだより

2022. 6. 10

## 令和4年度アドボケイト会総会

5月21日(土)令和4年度アドボケイト会総会が開催されました。コロナも収まる見通しが立ち、人数制限も設けずの開催となりました。

立ち上げ当時の熱気は失せ、ほとんど理事会と同じメンバーによる会になってしまっていますが、理事の新陳代謝は進めており、顔ぶれが変わって来ています。

<ピアホームの決算報告>

利用者の異動がなく、堅調に推移したこと、昨年5月から介護包括型に変わり、点数が少し上がったことから、安定した収入が得られています。

<ピアホーム新年度事業>

\*第3者評価受審

\*ピアホームⅡの移転建て替え

第1回虐待防止・身体拘束適正化委員会

引きこもり状態のIさんの件を検討しました。色々考える視点が多い事例ですので、検討課題を以下に挙げます。

### 1 医療保護入院における血族親族の同意

日本の民法は血族主義をとっており、家族の実態がないケースでも、血族的繋がりが優先されるという旧態依然たる観念で法の運用を行っています。

今回のケースは、育児放棄で家族的繋がりが無いケースです。そんな現状が無視され、大きな責任を子に押し付け、子が独立し、自らの幸せを求める権利を阻害しています。

なぜ、社会が責任を持って対処できないのか？このような非現実的な議論をして、何の解決にも至りません。

後見人をつけて行く方針で動いています。

### 2 当事者からの発信

引きこもり当事者から、具体的言葉で何か意味のある発信をすることがないことの方が多いのではないのでしょうか？具体的に“困った”と言わないから困っていないのでしょうか？

聴きに行ってあげる必要があるのでは？

また、昨今、重要視されて来た障害者自身の自己決定の尊重...

その通りだと言えますが、支援者の視点としては、自己決定できるように支援するというスタンスが求められます。

自己決定できない混迷の中にいるかもしれません？！難しいのです！

支援者が思うように誘導しようとするのは違いますが、どこまでが支援でどこからが自己決定？そんなことを悩みながら、日々、試行錯誤しながら支援する—ことがあるべき姿なのかもしれません。

同様に、昨今発せられる言葉に多様性があります。大変大事な概念ですが、議論を煮詰め、本質に迫ろうとするとぶつかり合う厳しさもあります。結果、この人の症状だね—で終わらせていないでしょうか？

この人は他の人と違う、以前の彼と状況が違う—を語るの意味は何でしょう？

病気共通の真理を見つけて対処する。個別を語った後、その人独自の対処方法を見出して行くのならいいのですが、集まってお話しし、違いをお話しするだけでは何にもなりません。

## 今月の予定

6月9日:ピアⅡ建替え都庁相談